

1-3 中国語学中国文学

研究・教育活動の概要と特色

専攻分野・中国文学中国語学の歴史は、大正14年7月の勅令264号により、支那学第二講座としての中国文学講座の設置にはじまります。

中国文学は、数千年にわたる一貫した歴史を有し、その様式も詩詞、散文、韻文、文言小説、口語体の白話小説、元・明の戯曲、近現代小説と多岐にわたります。本専攻では、これら豊饒な中国文学の世界の全てを研究対象としています。のみならず、語彙・語法・音韻等中国語学も研究対象に含めています。これらはみな、正確な文献の読解をまっぴらしてはじめてその研究の深化を図ることができるものです。そこで本専攻では、現代文・文言文を問わず、何よりも文献読解力の養成に力を入れています。学生・大学院生は、演習・研究演習・講読を適して読解力を高め、その基礎の上に立って自己の選んだテーマについて研究します。そのため本専攻の教員は、それぞれ独自の研究テーマを追究する専門性と同時に、中国文学中国語学全般に通暁する幅広い知識と見識が求められています。

また、学問の性格上、文献の読解には、辞書その他の工具書はもとより経・史・子・集の全てにわたる文献の利用が必須となっています。そのため本専攻は、中国思想中国哲学専攻や東洋史専攻と緊密な連携をとっており、これら二専攻との共同研究や読書会も盛んに行われています。本専攻の院生・学生は、これら二専攻の教員や院生・学生から研究に必要な種々の事柄についての指導・助言を受けることが可能であり、それが当専攻の伝統ともなっています。

I 組織

1 教員数（2009年9月末現在）

教授：2

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：花登正宏、佐竹保子

准教授：馬曉地

2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
16	4	6	5	0

3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	2	0	0
06	5	1	0
07	1	1	0
08	5	2	0
09	0	1	0
計	13	5	0

*2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件 数	論文博士授与件 数	計
05	1	0	1
06	2	0	2
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
計	3	0	3

*2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

輪田直子、2005年度、『清代弾詞研究—雅俗の狭間にある芸能—』

審査委員：教授・花登正宏(主査)、教授・中嶋隆蔵、教授・三浦秀一、
教授・磯部彰、助教授・佐竹保子

矢田尚子、2006年度、『楚辞「離騷」に見られる天界遊行モチーフについて—旧説の再検討および前漢期における受容と展開—』

審査委員：教授・佐竹保子(主査)、教授・花登正宏、教授・三浦秀一、
教授・熊本崇、教授・浅野裕一（大学院情報科学研究科）

大山岩根、2006年度、『李商隠詩研究—政治詩・詠史詩を巡る—考察—』

審査委員：教授・佐竹保子(主査)、教授・花登正宏、教授・三浦秀一、
教授・熊本崇

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	4	1	0	0	5
06	3	2	0	0	5
07	4	1	0	0	5
08	0	1	1	1	3
09	2	1	1	0	4
計	13	6	2	1	22

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学 会	国内学 会	研究 会	その他	計
05	1	3	1	0	5
06	0	4	0	0	4
07	0	0	0	0	0
08	0	1	0	0	1
09	1	1	0	0	2
計	2	9	1	0	12

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 大山岩根「李商隠「有感二首」について—杜甫「有感五首」との比較より見る—」 『中唐文学会報』第12号 2005.
- 大山岩根「李商隠「北齊二首」について」 『集刊東洋学』第95号 2006.
- 大山岩根「李商隠「四皓廟」詩について」 『東北大学中国語学文学論集』第11号 2006.
- 大山岩根「李商隠詠史詩に詠じられた陳の後主」 『中唐文學會報』第14号 2007.
- 矢田尚子「楚辞「離騷」の「求女」をめぐる一考察」 『日本中国学会報』第57集 2005.
- 矢田尚子「楚辞「遠遊」と「大人賦」—天界遊行モチーフを中心として」 『集刊東洋学』第94号 2005.
- 矢田尚子「『淮南子』に見える天界遊行表現について—原動篇・覽冥篇を中心に—」 『中国文学研究』第31期 2005.
- 高戸聰「方相氏の原初的性格」 『集刊東洋学』第98号 2007.
- 平良妙子「冊封使来琉時における詩文交流—『渡琉日記』を中心に—」 『集刊東洋学』第94号 2005.
- 平良妙子「琉球中山八景考—「筍崖夕照」を中心に—」 『第十屆中琉歴史関係国際學術會議論文集』 2007.
- 平良妙子「琉球中山八景に関する記述の変遷について—冊封使録の記述を中心に—」 岩田美喜・竹内拓史編『ポストコロニアル批評の諸相』 2008.
- 平良妙子「潘榮の「中山八景記」について」 『第1回琉中関係學術討論會論文集』 2009.
- 田島花野「招魂儀礼の時間と空間—『楚辞』招魂篇の乱辞を中心に—」 『集刊東洋学』第96号 2006.
- 菅原尚樹「功は蓋う三分の国、名は成る八陣の図—諸葛亮八陣図の詩跡化について—」 『集刊東洋学』第96号 2006.
- 菅原尚樹「「迷楼」から「摘星楼」へ—『武王伐紂平話』に見える遺跡について—」 『東北大学中国語学文学論集』第11号 2006.
- 菅原尚樹「婁子伯について—『三国志平話』の登場人物に関する考察」 『中国古典小説研究』第12号 2007.
- 菅原尚樹「『新刊全相平話武王伐紂書』における地理・地名について」 『東

- 北京大学中国語学文学論集』第13号 2008.
- 菅原尚樹「「今～是也」考—「全相平話」の地理注釈に関する覚え書き—」
『集刊東洋学』第101号 2009.
- 菅原尚樹「「大桑村」の人—『至治新刊全相平話三国志』に見える地名に
関する一考察—」 『三国志研究』第4号 2009.
- 菅原尚樹「『新刊全相平話楽毅図斉七国春秋後集』における地理・地名に
ついて」 『文化』第73巻第一・二号 2009.

(2) 口頭発表

- 大山岩根「晩唐詠史詩における四皓像—李商隱「四皓廟」詩を中心に—」
中唐文学会、2006.10.7.
- 矢田尚子「楚辞「離騷」の天界遊行について」三重哲学会研究発表会、
2005.7.3.
- 高戸聰「方相氏の原初的性格」第55回東北中国学会大会 2006.5.28.
- 高戸聰「「明神」の役割と性格に関する一考察」第61回日本中国学会
大会 2009.10.10
- 平良妙子「冊封使来琉時における詩文交流—『渡琉日記』を中心に—」第
54回東北中国学会 2005.5.29.
- 平良妙子「琉球中山八景考—「筍崖夕照」を中心に—」中琉歴史関係国際
学術会議 2005.12.9.
- 平良妙子「潘栄の「中山八景記」について」第1回琉中関係学術討論会
2008.12.19
- 平良妙子「中国が記した琉球」《人の移動と21世紀のグローバル社会》
国際シンポジウム「コンタクトゾーンとしての島嶼における文化現象—
沖縄と太平洋諸島／琉球と東アジア—」 2009.11.28
- 加賀沼伸江「岑参「白雪歌 送武判官帰京」について—雪と梨花の比喻
表現に着目して—」第55回東北中国学会大会 2006.5.28.
- 田島花野「招魂儀礼の時間と空間—『楚辞』招魂篇の乱辞を中心に—」第
55回東北中国学会大会 2006.5.28.
- 菅原尚樹「八陣図の展開—『三国志』『三国志平話』『三国志通俗演義』
を比較して—」中国古典小説研究会 2005.8.27.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

大山岩根 平成 18 年度総長賞受賞（2006 年度）

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2005 年度 学部 計 2 名 国立中山大学（台湾）、北京師範大学（中国）

2006 年度 学部 計 2 名 国立中山大学（台湾）、北京師範大学（中国）
大学院 計 1 名 北京大学（中国）

2007 年度 学部 計 1 名 国立中山大学（台湾）
大学院 計 3 名 北京大学（中国）、廈門大学（中国）、
復旦大学（中国）

2008 年度 学部 計 2 名 国立中山大学（台湾）、国立台湾大学（台湾）
大学院 計 4 名 北京大学（中国）、廈門大学（中国）、
復旦大学（中国）、国立台湾大学（台湾）

2009 年度 学部 計 2 名 国立台湾大学（台湾）、復旦大学（中国）
大学院 計 1 名 復旦大学（中国）

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	2	0	2
06	3	2	5
07	4	2	6
08	4	2	6
09	2	1	3
計	15	7	22

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	1	1
計	0	1	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

輪田直子、石巻専修大学、2005年度より

戸田聖子、東日本国際大学、社会人入学なので入学以前から

大山岩根、亜細亜大学、2009年度より

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 4名、

通訳 1名、

ジャーナリスト 1名、

出版社社員 1名

8 客員研究員の受け入れ状況

国立彰化師範大学（台湾）教授 許麗芳氏 2009年1月10日~2009年2月1日

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『東北大学中国語学文学論集』（専門分野の機関誌）1996より毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005年度

5月28～29日 東北中国学会第54回大会開催

7月1日 中国社会科学院文学研究所研究員張夢陽教授公開講演会「“竹内魯迅”と“中国魯迅”」

2006年度

7月10日 復旦大学中文系主任・上海作家協会副主任陳思和教授講演会・談話会

2007年度

日本中国学会「学界展望」文学部門の作成担当

2008年度

日本中国学会「学界展望」文学部門の作成担当

2009年度

なし

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005年度

8月2～4日 夏合宿研究会
8月3日 第163回中文談話会
11月12日 第164回中文談話会

2006年度

7月25日 第165回中文談話会
8月2～4日 夏合宿研究会
11月18日 第166回中文談話会

2007年度

7月17日 第167回中文談話会
8月6～8日 夏合宿研究会
1月13日 第168回中文談話会

2008年度

7月15日 22日 第169回中文談話会
8月3～5日 夏合宿研究会
11月15日 第170回中文談話会

2009年度

7月21日 28日 第171回中文談話会
8月3～5日 夏合宿研究会

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

学部教育については、基礎的学力を涵養するために、他の専攻分野同様に履修モデルを作り、『学生便覧』を通じて学部生に供している。またとくに、現

代中国語運用能力と古典漢文読解能力とを高めるために、助手・助教および TA による学習会を設けている。現代中国語については、金・土・日を除く毎日正午の 20 分間を当てている。元来 2 年生の 1 学期（3 セメ）のみを対象としたものであるが、近年 3 年生や 4 年生も参加を希望したり、また、2 学期（4 セメ）も続けて会話練習をしてほしいとの要請があったりして、指導担当者が嬉しい悲鳴をあげている。古典漢文は隔週 2 時間ほどで、これにも 2 年生から 4 年生までが自発的に参加している。4 年生の卒業論文指導は、スタッフ全員が随時のオフィス・アワーで助言しているほか、夏休み開始直前に「卒論構想発表会」を、秋に「卒論中間発表会」を設け、大学院生や 2・3 年生が参加して助言や質問を行っている。

大学院教育については、随時のオフィス・アワーや「中国語学中国文学研究演習」（中国語学史中国文学史上の諸問題）で、スタッフが助言・指導を行っている。さらに前期課程院生には、夏合宿研究会にて自ら読みたい現代文と古典文一件ずつの輪読会を主催させている。加えて当専攻分野は、隣接する専攻分野である中国思想中国哲学・東洋史の関係者らとともに中国文史哲研究会を組織し、学術雑誌『集刊東洋学』を年 2 回発行しており、おもに後期課程院生がその運営に当たっているが、前期課程院生には、該誌に登載された中国語学中国文学関係の論文の書評を担当させ、年 2 回の「『集刊東洋学』合評会」でそれを発表してもらっている。書評の作成によって、論文の読み方とその規範的な書き方を習得させるためである。また、後期課程院生については、学会における年 1 回程度の口頭発表と少なくとも年 1 回の論文作成およびその公表を要請しており、この目標はかなりの程度達成されている。論文は前掲の『集刊東洋学』のほか、『日本中国学会報』『中唐文学会報』『文化』『東北大学中国語学文学論集』等に登載されている。

学部生・院生にはともに、留学を勧めている。ここ数年はたまたま学部生の留学が多かったが、2006 年度には後期課程院生が北京大学に、翌年も後期課程院生が廈門大学および復旦大学に、2008 年度にはさらに国立台湾大学に、それぞれ留学を果たしている。ほとんどすべての院生が、留学先政府からの奨学金を獲得しており、継続獲得により、留学の延長を決める者も多い。

研究活動については、本学の他部局である東北アジア研究センター・大学院環境科学研究科・大学院国際文化研究科、および他専攻分野である中国思想中国哲学・東洋史等のスタッフとの共同研究が、東北アジア研究センター教授を中心とした特定領域研究「東アジア出版文化の研究」として科研費がつき、2001

年度から数年間、当該共同研究に従事していた。さらに「『世説新語』読書会」「『道教義枢』読書会」があり、これらは、当専攻分野と東洋史や中国思想中国哲学の教員、および三専攻分野の院生、さらには東北アジアセンターの院生等が参加する、専攻縦断型の研究会になっている。また、研究の国際交流を図るために、中国・台湾から研究者を招いて講演会や共同研究を推進している。

社会貢献や学会活動については、複数のスタッフが各種委員や講演会講師、学会の会長・理事・評議員等をつとめている。2007年度および2008年度には日本中国学会から学会展望文学部門のデータベース作成と展望批評を委嘱され、担当した。

Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

花登正宏「『古今韻会举要小補』について」、『東北大学中国語学文学論集』第10号、東北大学中国文学研究会、2005.

花登正宏「魯迅的經濟生活」、『魯迅研究月刊』2006年第5期、北京魯迅博物館、2006.

花登正宏「魯迅の日記より見た書籍購入傾向の変遷」、『東北大学中国語学文学論集』第11号、東北大学中国文学研究会、2006.

花登正宏「編纂《古今韻会举要》的目的」、『中国伝統文化与元代文献国際学術研討会会議論文集』、北京師範大学古籍研究所、2007.

花登正宏「『洪武正韻彙編』在中国辞書史上的地位」、『語苑擷英(二)』、中国大百科全書出版社、2007.

花登正宏「収録字の配列より考察する中国辞書史の構想」、『東北大学中国語学文学論集』第13号、東北大学中国文学研究会、1-24頁、2008年11月

花登正宏「編纂《古今韻会举要》的目的」、『中国伝統文化与元代文献国際学術研討会会議論文集』、北京師範大学古籍与伝統文化研究院編、中華書局、160-168頁、2009年3月

佐竹保子「孫綽「天台山に遊ぶ賦」の修辞—『楚辞』から謝靈運詩賦に至る—」、『集刊東洋学』第93号、中国文史哲研究会、21-40頁、2005年5月

- 佐竹保子「「天台山に遊ぶ賦」序文の検討—「存思法」との関わり」、『東北大学中国語学文学論集』第 10 号、東北大学中国文学研究会、1-21 頁、2005 年 11 月
- 佐竹保子「張華樂府の三个特点」、『中日学者中国学論文集 —中島敏夫教授漢学研究五十年志念文集』、劉柏林・胡令遠編、復旦大学出版社、356-369 頁、2006 年 10 月
- 佐竹保子「“賞”義考：從先秦至劉宋」、『中日學者六朝文學研討會論文集』、北京大學中文系・日本六朝學會編、72-79 頁、2006 年 12 月
- 佐竹保子「孫綽「天台山に遊ぶ賦」の描く理想境—先秦から劉宋に至る理想境描写における位相」、『立命館文学』第 598 号、立命館大学人文学会、165-172 頁、2007 年 2 月
- 佐竹保子「中国古典における「賞」（上）」、『新しい漢字漢文教育』第 44 号、全国漢文教育学会、33-44 頁、2007 年 6 月
- 佐竹保子「中国古典における「賞」（下）」、『新しい漢字漢文教育』第 45 号、全国漢文教育学会、9-18 頁、2007 年 11 月
- 佐竹保子「六朝の宮廷文学」、『王朝文学と東アジアの宮廷文学』、仁平道明編、竹林舎、182-207 頁、2008 年 5 月
- 佐竹保子「『世説新語』の「賞」」、『六朝學術学会報』第 10 集、六朝學術学会、107-134 頁、2009 年 3 月
- 佐竹保子「李善注「事無高翫、而情之所賞、即以爲美」考——謝靈運「從斤竹澗越嶺溪行」詩の「情」の解釈に関わって」、『集刊東洋学』第 101 号、中国文史哲研究会、21-42 頁、2009 年 5 月
- 馬曉地「唐人戲謔」、『東北大学文学研究科研究年報』第 56 号、2006.
- 馬曉地「唐人早朝」、『東北大学中国語学文学論集』第 11 号、東北大学中国文学研究会、2006.
- 馬曉地「唐人以詩戲謔」、『東北大学中国語学文学論集』第 12 号、東北大学中国文学研究会、2007.
- 馬曉地「古人的誤讀與卓識—也說“許渾千首濕”」、『東北大学中国語学文学論集』第 12 号、東北大学中国文学研究会、25-46 頁、2008 年 11 月
- 大山岩根「李商隱「有感二首」について—杜甫「有感五首」との比較より見る—」、『中唐文學會報』第 12 号、中唐文学会、2005.
- 大山岩根「李商隱「北齊二首」について」、『集刊東洋学』第 95 号、中国

文史哲研究会、2006.

大山岩根「李商隠「四皓廟」詩について」、『東北大学中国語学文学論集』
第 11 号、東北大学中国文学研究会、2006.

大山岩根「李商隠詠史詩に詠じられた陳の後主」、『中唐文學會報』第 14
号、中唐文学会、2007.

1-2 著書・編著

花登正宏『人文科学ハンドブック』（中村捷、千種眞一、松本宣郎、海野
道郎と共編）、東北大学出版会、2005.

花登正宏『東北—その歴史と文化を探る』（中村捷、千種眞一、松本宣郎、
海野道郎と共編）東北大学出版会、2006.

花登正宏『世界の食と文化』（千種眞一、阿子島香、嶋陸奥彦、萩原理と
共編）東北大学出版会、2007.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

花登正宏「外国語を学ぶ（中国語）」、『人文科学ハンドブック』、東北
大学出版会、2005.

花登正宏「魯迅と東北大学」、『まなびの杜』第 41 号、東北大学、2007.

花登正宏「漢字の魅力と魔力」、『世界の言語』、東北大学出版会、2008.

佐竹保子「杜甫「旅夜書懷」を読む」、『人文科学ハンドブック—スキ
ルと作法』、東北大学出版会、2005.

佐竹保子「『宋書』楽志一訳注」（分担執筆）、『六朝の楽府と楽府詩』
（課題番号 14310203、平成 14 年度～平成 16 年度科学研究費補助金（基
盤研究(B)(2)）研究成果報告書、2005.

佐竹保子「中国古代の美食と美酒」、『食に見る世界の文化史』、東北大
学出版会、2007.

佐竹保子「『隋書』音楽志訳注稿（一）」（分担執筆）、『中国学研究論
集』第 18 号、広島中国文学会、2007.

佐竹保子「学界展望（文学）」、『日本中国学会報』第 59 集、日本中国学
会、2007.

佐竹保子「学界展望（文学）」、『日本中国学会報』第 60 集、日本中国学
会、2008.

佐竹保子「『随園食単』紹介」、『まなびの杜』第 45 号、東北大学、2008.

佐竹保子（川合安氏・大形徹氏・柳川順子氏と、分担執筆）「『隋書』音楽志訳注稿（三）」、『中国学研究論集』第22号、広島中国文学会、担当部分は31-48頁、2009年4月

1-4 口頭発表

花登正宏「編纂《古今韻会举要》的目的」、単独、「中国伝統文化與元代文献国際學術研討会」、北京師範大学古籍研究所、2007年11月17日
花登正宏「字書・音書・義書」、単独、「琉球官話と中国のことば」琉球大学法文学部、2008年6月28日

佐竹保子「中国古典における「賞」」、単独、「全国漢文教育学会」第22回（通算52回）大会（公開研究発表・大学の部）、秋田大学／秋田市、2006年5月20日

佐竹保子「“賞”義考：従先秦至劉宋」、単独、「中日学者六朝文学研討会」 北京大学（北京郵電療養院賓館會議室）／中国北京市、2006年12月7日

佐竹保子「謝靈運山水詩中的「賞」與「情」」、単独、「重探自然 人文傳統與文人生活國際學術研討會」、國立台南藝術大學音像大樓／台湾嘉義市、2008年6月25日

佐竹保子「謝靈運山水詩についてつけ加えたい二、三のこと」、単独、「日本中国学会」第61回大会、文教大学／越谷市、2009年10月10日

大山岩根「晚唐詠史詩における四皓像—李商隱「四皓廟」詩を中心に—」、単独、「中唐文学会」第17回大会、杏林大学／八王子市、2006年10月7日

大山岩根「李商隱「景陽宮井雙桐」詩—桐と井戸のモチーフを中心に—」、単独、「東北中国学会」第57回大会、北海道大学／札幌市、2008年5月25日

2 教員の受賞歴（2005～2009年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009年度）

（1）科学研究費補助金

2006年度

佐竹保子「南北朝樂府の多角的研究」（基盤研究（B）、分担、分担金なし）

2007 年度

花登正宏「収録字の配列方法より考察した中国辞書史の研究」（基盤研究（C）、代表、91万円）

佐竹保子「南北朝楽府の多角的研究」（基盤研究（B）、分担、分担金なし）

佐竹保子「魏晋六朝文学における美と聖性」（基盤研究（C）、代表、78万円）

2008 年度

花登正宏「収録字の配列方法より考察した中国辞書史の研究」（基盤研究（C）、代表、208万円）

佐竹保子「南北朝楽府の多角的研究」（基盤研究（B）、分担、分担金なし）

佐竹保子「魏晋六朝文学における美と聖性」（基盤研究（C）、代表、52万円）

2009 年度

花登正宏「収録字の配列方法より考察した中国辞書史の研究」（基盤研究（C）、代表、91万円）

佐竹保子「南北朝楽府の多角的研究」（基盤研究（B）、分担、分担金なし）

(2) その他

なし

V 教員による社会貢献（2005～2009 年度）

花登正宏

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会分野別審査部会専門委員（書面審査委員）2005年8月10日～2005年12月31日、2006年5月2日～2006年12月31日

大学院教育改革支援プログラム委員会分野別審査部会専門委員（書面審査委員）2007年5月21日～2007年12月31日

中国語検定協会評議員 2002年4月1日～2008年3月31日

日本学術会議連携会員 2006年4月1日～2010年3月31日

佐竹保子

NHK 文化センター市民講座講師「漢詩の名句・名吟」「漢詩を読む」
2001年10月から、現在に至る。

進路講演会（宮城野高校） 2005年5月14日
『致道館創立200年記念講演会』招待講演「蘇東坡の赤壁のうた」、
鶴岡市「鶴翔会館」、2005年9月25日
第三期有備館講座「世界の食と文化」にて「古代中国の美食と美酒」
岩出山スコーレハウス、2006年9月16日
東北大学市民オープンキャンパス「紅葉の賀」にて「霜葉は二月の花
よりも紅なり—中国のもみじのうた—」、東北大学文教大講義室、
2006年11月3日
東北大学文学研究科県民講座「県民のための文学サロン」にて「李賀
という詩人—芥川龍之介や沢木耕太郎の愛した夭折の鬼才」、東北
大学文教大講義室、2008年9月20日
東北アジア研究センタープロジェクト部門プロジェクト研究ユニット評
価委員、2008年4月1日~2010年3月31日
第八期有備館講座「学問の楽しさ」にて「伝統中国学と近代的文学研究の
はざままで」、岩出山スコーレハウス、2009年8月22日
宮城県民大学（兼・教員免許更新研修）「人間理解の方法論：文・史・哲・
心 それぞれの流儀」にて「「情」という詩語について～その解釈に
見る人間理解」、文学部第一講義室、2009年9月17日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009年度）

花登正宏

東北中国学会会長
中国文史哲研究会会長
日本中国学会理事
日本中国語学会理事
東方学会地区委員

佐竹保子

六朝学会評議員
中国文史哲研究会常任編集顧問
中国社会文化学会評議員
日本道教学会評議員
日本中国学会評議員

VII 教員の教育活動（2009年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

花登正宏 教授

中国語学中国文学特論Ⅰ 中国音韻学研究

中国語学中国文学研究演習ⅠⅡ 白話小説研究

中国語学中国文学研究演習ⅠⅡ（佐竹教授と共同）中国語学史中国
文学史上の諸問題

課題研究（佐竹教授と共同）

佐竹保子 教授

中国語学中国文学研究演習ⅠⅡ 『文選』読解

中国語学中国文学研究演習ⅠⅡ（花登教授と共同）中国語学史中国文
学史上の諸問題

課題研究（花登教授と共同）

馬曉地 准教授

人文社会科学研究

中国語学中国文学特論ⅠⅡ 唐代叙事詩

中国語学中国文学研究演習ⅠⅡ 当代文学研究

井上泰山 講師（非常勤講師・関西大学大学院文学研究科）

中国語学中国文学特論Ⅲ 中国における白話文学の成立と展開

塚本信也 講師（非常勤講師・東北学院大学）

中国語学中国文学研究演習ⅠⅡ 中国近現代文学研究

2 学部授業担当

花登正宏 教授

中国文学各論 中国音韻学研究

中国文学演習 袁氏世範研究

中国文学演習 白話小説研究

佐竹保子 教授

中国文学概論 杜甫の文学

中国文学概論 中晩唐の怪奇と夢幻

中国文学基礎講読 中国語実用文法研究

中国文学演習 『文選』読解

人文社会科学序論 2セメから始める中国語

人文社会科学総論（分担） 中国文学紹介

馬曉地 准教授

中国語基礎演習 中級会話

中国文学各論 唐代叙事詩

中国文学演習 当代文学研究

井上泰山 講師（非常勤講師・関西大学大学院文学研究科）

中国文学各論 中国における白話文学の成立と展開

塚本信也 講師（非常勤講師・東北学院大学）

中国文学演習 中国近現代文学研究

3 共通科目・全学科目授業担当

佐竹保子 教授

総合科目（分担） 世界の食と文化

馬曉地 准教授

中国語 初級中国語

専門中国語 中級中国語

展開中国語

(2) 他大学への出講（2005～2009年度）

花登正宏 教授

大東文化大学大学院文学研究科（2005年度～2008年度）

佐竹保子 教授

九州大学大学院文学研究科（2007年度）

大山岩根 助教

東北学院大学教養学部（2008年度）